

## 教科の重点スキルとスキル育成のためのテーマ【C1 創造力 D2 協働力】

発想・構想力を高めるために作品共有ファイルを活用した言語活動の充実

## 1 題 材 抽象表現～紙立体に物語を感じて～

## 2 目 標

- 抽象表現に関心を持ち、意欲的に制作に取り組もうとする。（美術への関心・意欲・態度）
- 感性や想像力を働かせながら、自分のつくりたい形のイメージを持ち、心豊かな表現の構想を練ることができる。（発想や構想の能力）
- 紙の素材感を生かした工夫を考え、効果的に材料を活用して表すことができる。（創造的な技能）
- 作品のよさや工夫を感じ取り、自分の価値意識をもって味わうことができる。（鑑賞の能力）

## 3 題材について

中学校学習指導要領解説美術編では、表現の能力を育成していくために、「創造的な技能を働かせて実際に形にしていく中で発想や構想を再度見直したり、構想を練る中で新たな表現方法を考えるなど、相互に関連を図りながら高めていくことが重要である。」と述べられている。このことから、これからの美術科学習指導では、生徒の能力を高めるために様々な学習活動をリンクさせ、より自分のイメージに近い形をつくり出す力を伸ばすことができるような学習過程が必要であると考え。本題材では、自作の物語に合わせて紙立体の制作を行う。本題材で使用する紙という素材は、身近でありながら可変性が高く、表現の幅が広い。試行錯誤を通して、素材の面白さを感じつつ自分なりの工夫がより具体的に表現できるのではないかと考える。

本学級の生徒は真面目で穏やかな生徒が多く、話し合い活動の場面でも和やかにお互いにアドバイスし合うことができる。一方で課題に対しての取組、意欲に差が見られ、一生懸命に取り組むことのできる生徒と、発想が浮かばず制作が遅れてしまったり、困難を感じてしまったりする生徒に大きく分かれてしまっている。

このような実態を踏まえ、本題材では、導入時に多くの作品を鑑賞するとともに、制作の途中にも鑑賞の場면을効果的に設定することで、作品制作の見通しをもたせるとともに、自分のイメージするものが形にできるように指導していきたい。また、表現の学習過程で設定する鑑賞の場面では、小中連携を生かした鑑賞指導を工夫することで、自分のイメージを形にする力を伸ばしていきたいと考える。

## 4 指導と評価の計画

## (1) 次世代型A Z U M Aプランの重点スキル育成のための手立て

次世代型A Z U M Aプランにおける美術科の重点スキル「D2協働力」を育成するために、授業中のアイデアスケッチや参考作品鑑賞で、ペアワークやグループワークなどを積極的に取り入れ、友達との意見交換を通してより自分のイメージを確かなものにするように言語活動を設定している。特に、本時においては小中連携を生かし、アイデアスケッチを小学校4年生に見てもらい、コメントを入れてもらったものを活用する。それに加えてグループでアドバイス交換を行い、試作品をつくることで更によりよい作品づくりにつなげたい。

(2) 次世代型AZUMAプランと関連題材 (D2協働力)

前期 (1年～4年)	中期 (5年～7年)	後期 (8・9年)
受け手のニーズを考えながら自分の思いをイメージにするとともに友達の思いを知る。また、創造したものを、効果的に発信伝達することができる。	友達の作品を鑑賞したり、他学年と交流したり、多様な芸術作品に触れたりする体験を通して、創造的な考えを深めることができる。	つくりたいイメージに合わせて自分に必要な材料と用具を選択することができる。また、作品についての意見交換を通して更に技能を高めることができる。
1年 さわって、はって、たしかめて 4年 自分いろがみ	6年 はさみと紙のハーモニー	8年 抽象表現～紙立体に物語を感じて～

(3) 題材の評価規準

観点	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
評価規準	<p>【表現】〔関①〕主体的に主題を考え、自ら発想や構想を深め、表現を工夫しようとしている。</p> <p>【鑑賞】〔関②〕作品の表現に工夫を見出したり、よさや美しさを自分なりに味わおうとしている。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>	<p>〔発①〕感性や想像力を働かせながら、自分のつくりたい形のイメージをもち、心豊かな表現の構想を練っている。</p> <p>〔観察・ワークシート・作品〕</p>	<p>〔創①〕紙の素材感を生かした工夫を考え、効果的に材料を活用しながら表している。</p> <p>〔観察・作品〕</p>	<p>〔鑑①〕作品の造形的なよさや表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。</p> <p>〔観察・ワークシート〕</p>

(4) 指導計画 (8時間扱い)

次時	学習活動及び内容	関心	発構	創技	鑑賞
1次	1 題材について知る。 ・教科書を鑑賞して、題材を理解し、制作の全体像をつかむ。 ・小学校4年生の「自分いろがみ」作品や紙立体作品の鑑賞を通して、作品制作に対する意欲をもつ。	◎ 関①			○ 鑑①
2次	1 物語や紙立体を発想し、構想を練る。 ・実際に紙を触り、「プチスケッチ」からアイデアスケッチへと考えをまとめていく。	○ 関①	◎ 発①		
3次	1 作品を試作する。 ・物語をイメージしながら、試行錯誤を繰り返し紙立体を試作する。		○ 発①	◎ 創①	
4次	1 本時 中間鑑賞会を行う。 ・小学4年生からのメッセージを読み、参考にする。 ・グループで作品を相互鑑賞し、アドバイスし合う。		○ 発①		
5次	3 作品を制作する。 ・アドバイスを生かしながらよりよい作品になるように仕上げる。		○ 発①	◎ 創①	
6次	1 鑑賞会をする。(プレゼンテーション) ・自分の制作を振り返るとともに友達の作品について考えることで、次時の制作につなげる。	○ 関②			◎ 鑑①

5 本時の学習

(1) 目標

感性や想像力を働かせながら、自分のつくりたい形のイメージをもち、心豊かな表現の構想を練ることができる。 (発想・構想の能力)

(2) 準備・資料 参考作品、付箋、ワークシート、プロジェクター、PC、試作品

(3) 展開

分	学習内容及び活動	指導上の留意点と支援 (◎評価, ☆重点スキル育成のための手立て)
5	1 本時のめあてを記録カードに記入し、各自の目標を考える。(一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの活動を振り返り、本時の目的や活動内容、注意事項を説明する。</li> </ul>
20	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">アドバイスを受けてよりよい作品になるように工夫しよう</p> 2 4人グループでそれぞれのアイデアスケッチを鑑賞し、よりよくなるためのアドバイスを付箋を使って交換する。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆導入で鑑賞した「自分いろがみ」を作成した小学校4年生からのコメントが記入してあるアイデアスケッチを読み、自分の思いが伝わっているかどうかを確認する。(プロジェクターで、記入している小学生の様子を紹介する。)</li> <li>アイデアスケッチを順番に交換し、作品に対する助言を観点を明確にして書くように指示する。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈観 点〉・デザイン性 (形の美しさ, 複雑さ, 構造)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマとのイメージの相違</li> <li>・物語との関連</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動が進まない生徒に対して、視点をヒントとして提示し、参考にするよう声かけをする。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>〈ヒント〉・自分との比較</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の作品同士の比較</li> <li>・物語とデザインの比較</li> </ul> </div>
20	3 アドバイスを生かす。 (1) 友達からもらったアドバイスを読み、友達の作品を鑑賞した感想や自分の作品に生かしたいことをワークシートに記入する。(グループ) (2) アドバイスを基にアイデアスケッチに加筆したり、試作品を制作したりする。(一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>作品を共有することで、共感し合ったり表現の工夫を具体的な言葉にしたりして、自他の作品のよいところや課題点を見出せるようにする。</li> <li>☆友達との意見交換を通してより自分のイメージを確かなものにすることができるようにし、作者の意図や造形的なよさ、表現の工夫に気付かせ、参考にできるようにする。(D2協働力)</li> </ul> <p>◎感性や想像力を働かせながら、自分のつくりたい形のイメージをもち、心豊かな表現の構想を練っている。 (発想・構想の能力) [観察, ワークシート]</p>
5	4 本時のまとめをする。(一斉)	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動を振り返りながら、記録カードに反省と感想を記入するように指示する。</li> <li>次時の活動を説明し、見通しをもたせることによって、次回の制作につなげるようにする。</li> </ul>